

## 前期終業式でのお話

今日でちょうど学年の半分の学習が終わりました。  
今日はその締めくくりの日です。  
校長先生からは、皆さんに、「振り返ることの大切さ」をお話しします。

今から随分前、校長先生がクラス担任をしていた頃のお話です。  
書き初めを練習し始める頃、クラスの女の子が先生のところに相談にきました。  
どうしても書き初めで上手な作品を書きたいのだというのです。  
先生はいろいろ考えましたが、結局知り合いの書道が上手で有名な先生に、思い切って尋ねてみることにしました。  
するとその先生は、  
「一枚書いたらその書いた時間の2倍から3倍の時間を使ってその作品を見て、お手本と比べてどこがどう上手だとか、どこをどう書いたらよりお手本に近づけるのかを振り返るよう伝えてください」と、教えてくれました。  
先生はそれを聞いてとても驚きました。  
なぜならそれまでは「とにかくたくさん書くといい」などと教えられていて、それを信じ込んでいたからです。  
だから実はその先生からも、きっとそう言われるかと、たかを括っていたのです。

早速次の日、女の子にそれを伝えました。  
するとその子はそれを素直に聞き入れ、書く時間より2、3倍振り返る時間をとることを毎日繰り返しました。

そして3週間が経ったくらいのある日、すごいことが起こりました。  
その子の字がお手本とそっくりになったのです。  
形や大きさだけでなく、筆の入りも、太さ、細さも、濃さも薄さも、はねた後の筆の揃い方も。  
まるでお手本はその子が書いたのではとってしまうほどでした。  
また実は、その子の作品はお手本より伸びやかで、もっと素晴らしい作品だと先生は思いました。  
お手本を真似て、少しでも近づけようとするのは、そのお手本を書いた人の、力の込め方や息づかい、動きの速さ、遅さ、ひいては思いの全てを自分の体に覚え込ませることにつながったのです。  
結局その子の作品は学校だけでなく、市の代表にも選ばれ、県の展覧会に出品され、その中で、最も優秀な賞を見事受賞しました。

闇雲になにかをし続けるよりも、丁寧に振り返ることに時間を費やすこと。そしてそれを生かしてまた取り組み直すこと。それが成長につながるのでしょうか。

ちょうど学年の半分の学習が終わった今日、  
学習した時間の2倍3倍は難しいかもしれませんが、これまでの取組を丁寧に振り返ってみてくださいね。  
そうすると、後期に頑張ることがはっきりと見えてくると思います。